

平成21年度熊本県堆肥共励会「耕畜連携推進の部」推薦調書

団体名	中央町堆肥生産組合	代表者名	奥村 智昭
-----	-----------	------	-------

取り組み事例

<背景及び活動内容>

平成9年に熊本東部地区畜産基盤再編総合整備事業により建設された堆肥生産施設を運営するための組織として美里町中央地区肉用牛一貫経営体により設立しました。

堆肥生産は、各牛舎から堆肥生産施設へ搬入後、定期的(7~30日間隔)の切り返しを行い、約9カ月かけて堆肥を生産しています。また、切り返し・袋詰め・運搬などの各種作業毎に料金設定することで運営の効率化を図っています。

また、販路拡大を目的に以下の様な取り組みを実施しています。

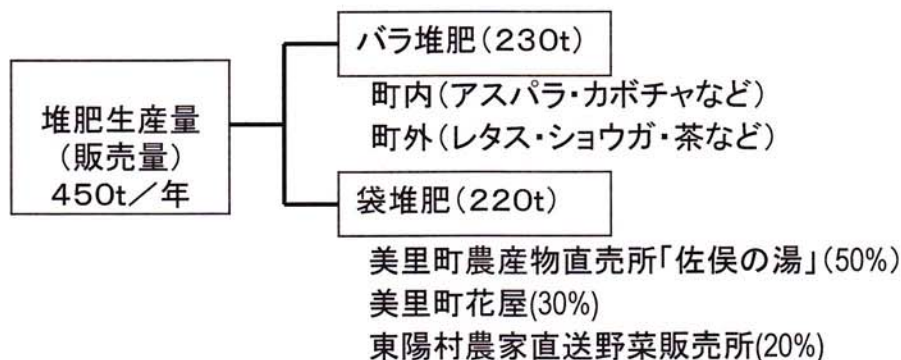
- ①堆肥生産を開始した当初から数年間、美里町や町外で開催されるイベントなどの景品として耕種農家や一般消費者の方々へ本組合の袋堆肥を提供した
- ②堆肥散布機を所有していない耕種農家には、散布機を一部無償貸付することで堆肥を利用しやすい体制づくりに努める
- ③品質を確認するために定期的な堆肥の成分分析を行い、安定した良質堆肥の生産に努める

<活動の結果及び成果>

試供品を利用した耕種農家や消費者から堆肥が受け入れられ、徐々に利用者が増えてきました。

また、本組合生産の堆肥が平成17年堆肥共励会最優秀賞を受賞し、組合長が「堆肥の達人」として認定されたことで、品質が評価され利用者が増加しつつあります。

バラ堆肥は、町内・八代地域の施設野菜などに利用され、袋堆肥は「なごみ」とネーミングし完熟堆肥として直売所などで販売しています。



<今後の目指す方向と課題>

組合の労力提供及び施設規模などから、堆肥の生産量を増やすことは難しい状況です。

しかし、美里町肉用牛の頭数拡大には、自給飼料の確保や堆肥散布組織が必要であるため、同町内のコントラ組織などと統合し新たな体制を整えることで、堆肥原料の受入量を増やし、良質堆肥の生産拡大を行う予定です。

また、これまでの技術を活かしてより魅力ある堆肥を生産し続け、耕種農家と連携した「地域内資源循環型の農産物生産」を推進していきたいと思えます。



【堆肥生産施設】



【発酵途中の堆肥】

堆肥の切り返し時に放線菌の発生を確認することで品質を管理しています



美里町農産物直売所「佐侯の湯」



袋堆肥【なごみ】

美里町直売所へ農産物を出荷している生産者の約半数が「なごみ」を利用しています